

## 四者協議の発言記録

日程：平成28年11月29日（火）

場所：グランドニッコー東京 台場 「エトワール」

**コーチ委員長**：みなさんこんにちは。特に小池知事を歓迎申し上げます。みなさんようこそ。森会長、丸川大臣、ようこそおいで下さいました。それからメディアの方々も歓迎申し上げます。

今回の会議は公開ということになっております。会議全体が公開ということになっております。我々のプレゼンも。それから議論も我々の間の議論も。それから結論部分も全て公開であります。

今回の会議ですけれども、これを四者協議、ポリティカルワーキンググループミーティングと呼んでおりますけれども、これはIOCのバッハ会長が提案したことによって作られたものであります。10月にバッハ会長が訪日した時にいろいろな知事とお話し合いをした際に、彼女のところに東京都から調査委員会の報告が渡っているという経緯がありました。それを受けてこれが決まったものであります。

全ての当事者の方々に御礼を申し上げたいと思います。大変な努力をしてくださいました。四者ともがテクニカルな努力をして下さいました、この間。私はその作業をずっとフォローしてまいりました。クリストフ・ドゥビが長を務めましていろいろな作業がなされました。随分多くの仕事が多くなされたと思います。知事も同意して下さると思いますけれども。フルな、そして適切な考慮が与えられました。すべてのそちら側の都の調査報告書にあったようなことにつきましては全ての意見が尽くされたと思っております。

我々テーブルに集っているものは全員、共通の目的をもっております。お金を節約することです。IOC、ご存知のように哲学をもっております。アジェンダ2020というもののもとにプロジェクトを開発する時にはスポーツ、経済、社会的な、そして環境的な長期的なその年のニーズに合わせたものにしていかなければいけないというものであります。そして、コストを削減すること、そして柔軟性と持続可能性はアジェンダ2020の中でも高い位置づけであります。作業がはじまりました時にはまずは節約ということで、最初にきた時にはマスタープランのレビューをいたしました。2015年のことであります。その時にご存知だとは思いますが、テーブルの周りの方、皆さまはご存知だとは思いますが、既存の会場を使うということによりまして、いくつか組織委員会と一緒に。それからまたいろいろな協力をいただきましてIFの方々からの協力もいただきまして。我々は18億ドル相当の節約をすることができました。これは改定された建設予算からそれだけの節約をすることができました。そして、更に努力をいたしましてIOCからみてみますと確信をもっておりまして更なる節約が可能であろうと私どもは確

信しております。

私はここで強調したいと思うことがあります。これは時間が大事だということです。実はリオのオリンピックを担当いたしました調整委員会委員長がデブリーフィングの時にこういうことを言っていました。「もし私から何かアドバイスをするとしたならば時計はチクタクと時を刻んでいるということ」がメッセージだと言っておりました。私はこれを皆様お一人お一人に申し上げたいと思います。時は刻んでいるのです。我々は新しい建設があればそれはちゃんと完了しなければなりませんし、そして建設の着工が遅れば遅れるほどそれだけコストは増していく。例えば入札コスト、調達コスト、そういったものが上がっていくということを申し上げなければなりません。労賃、それから資材、そういったものをどんどん希少になってまいります。コストは上がっていきます。

ということで、それを申し上げたうえで森会長、小池知事。私はボートの選手ですので我々一緒に船を漕いでいるんだという表現をよく使っております。それが哲学であります。その哲学でこれからの数時間を導かれていきたいと思っております。一緒に船を漕いでいるということです。まず最初に森会長にマイクをお渡しいたしましたして序論的なことを言っていただきまして、その次は大臣に発言をしていただきまして、その次に知事にお話しをいただきたいと思っております。そしてそれから都のプレゼンテーションに移るという段取りでいきたいと思っております。では森会長どうぞ。

**森会長**：コーツ委員長、ギラディ副委員長、デュビさん、皆さん、ありがとうございます。ご苦労さまです。私から意見を言うということは、コーツさんからの命令ですから、感想は申し上げますが、今日のこの会は東京都から出ている、いわゆる調査要求というんでしょうか、施設に対してのお考え、それに対して IOC がどう受け止めるか、それを思っバハ氏が 10 月お帰りになって作業部会等を続けた結果の、今日は、その結論を出せる日です。

ですから、私がまず、結局どう思うかということであれば、少なくとも今、対象になって結論の出ない 3 つの施設について、予算はまた別にありますが、この 3 つの施設について、どういう結論をお出しになるのか。そしてその結論を小池知事が、どう受け止められるのか。それを伺って私がこの問題に対しての意見を述べるのは私の立場です。私は組織委員会でありますから、主催をする東京都が進めていくことについて、我々はそれに従っていくことは当然であろうというふうに思っております。

従って、あえて、(※判別できず) が所見を述べろということであれば、今、共通の我々は船に乗って、そして共通のテーマはいいオリンピックをつくろう。そしてもう 1 つはできる限り節約をしよう。さっき、冒頭コーツ委員長からお話しになりましたのは、2000 億削減したことの評価だと思います。あれは私もがやりました。確かにコンパクトと言われた、あの 8 キロ圏内のものでは、いろんな意味で物理的にもお金がかかることがよく分かりました。周辺や、その環境を整備するためにも大変なお金が掛かる。従って、こ

こは見直していくべきだろうということで、個々に、2年ちょっとかかりましたですね。

おっしゃるとおり、IOCは常に何か、この決められたことが変わるなら、決められていることが変わるなら、NFとIFの了解を取ってください。IF、NFの了解を取ったらIOCとしては了解しますということは常に、ローザンヌの意見でしたから、このために大変な努力をみんなしました、組織委員会。そして、竹田さんの率いるJOCの皆さんも、つまり、所属されるNFの皆さんも。もう何度もですね、外国に行ってお願いをしたり意見を交わしたりして、まとめ上げてきたのが、この2年前から、約2年間ちょっとかけて作ったものでありまして、それをさらにまた変更するというのであれば、本当に節約するということについては我々も大賛成。

小池さんが初めて当選されて、私をご挨拶におみえになったときも、改革をされることは大賛成ですよということは申し上げてございます。しかし、やはり期間というものはある。それからその準備にかかる日数というものもある。それ以上、時間をかけて多くの人たちに、今おっしゃって、延ばすことによってかかる諸経費を考えてみたら、逆にそのほうがプラスになってしまう。プラス、マイナス逆になってしまうことだってありうるわけですから、だからできるだけ早く結論を出すということが大事かというふうに思います。しかし、この会議を編成し、こうした形で議論をするということになったのは大変良かったことであって、これは、知事の選挙における公約における、1つの結果であって、これは私は評価をしたいというふうに思っております。以上です。

**丸川大臣**：ありがとうございます。四者協議のご提案を、初めにバツハ会長からお伺いをして、それについてお会いをしたときに、ぜひこのご提案を実りあるものにしたいということをお伝えいたしました。参加してもらいたいというバツハ会長の要請を重く受け止めて、国としても四者協議に参加、また協力をさせていただいてまいりました。

この四者協議ではレガシーの創出とアスリートファーストを実現しながら、オリンピックの持続可能性の観点から、いかに大会経費を抑えるかが課題とされております。今月初旬以降、二度にわたり開催されました作業部会では競技会場の見直しのほか、コスト抑制の方策について精力的な議論が行われたと承知をしております。今後、納税者の理解を得ながらコストカットの議論をしていくためには、パーツ、パーツではなく、コストの全体像を示しながら議論をすることが必要と考えておりまして、この点についてもバツハ会長と、その面会の際に合意をさせていただいたところでです。

ですので、今回、ラフな形でもよいので、大会経費をなるべく早く国民の皆さまにお示しし、それを踏まえながら関係者が引き続きコストカットの議論を、また努力を重ねていく必要があると考えております。このあとのセッションにおいて、大会の経費が示されることを期待しております。本日の議論を通じて大会の成功に向けた方向性を示すことができればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

小池知事：コーチ委員長、アレックス、クリストフ、皆さま本当に、今回、この四者協議がこのような形で開かれるまでに至ります、ご努力に心から感謝を申し上げます。そして調査チームが、それぞれ宮城や横浜などに出掛けてまいりました、地域の皆さま方にも心から感謝を申し上げたく存じます、ありがとうございます。

ちょっとこちらの数字をご覧いただきたいのですが、東京、日本の首都でございますけれども、1964年のオリンピック大会、これは新幹線ができ、そしてまた首都高速ができるということで素晴らしい大会となり、その後の高度成長につながりました。人口も増加いたしました。そして今やこの人口にいたしましても、2025年には東京でさえピークが来るといような状況になっておりますので、1964年の形を繰り返すという、それは、東京はとらない、そういう道はとらない。むしろ2020年以降のことも考えながら、日本の成長と、そして首都東京の成長と、そういったことを見据えた大会にしなければならないと、このように思っているところでございます。

ちょうどこちらのほうをご覧いただきたいんですが、今回、IOCの皆さま方にもお願いをしたところでございますけれども、今回、東京はこの大改革の下にですね、次のような考え方をまとめさせていただきました。2020年のオリンピック・パラリンピックはどうあるべきなのか。こちらのこのアジェンダ2020、ここでバッハ会長がうたっておられる、プリンシプルとゴール、そしてサステナビリティという基本的な言葉、さらには既存の施設を使っていきましょう、そして持続可能性を追求していきましょうという、さまざまな提言を、それを実際に生かすのが次の東京大会、初めての大会になると考えております。

そういった中でコストの削減、そしてまた、この総コストのキャップをはめるということ、それから全体のガバナンスをどのようにして確保していくかなど、さまざまな考え方、また目標がございます。で、本日このようにお忙しい皆さま、お集まりいただいている中で、今日の時間割で、ずっと最後に結論を言うのではなく、申し上げるのではなく、まず東京としての現時点におきましての考え方を申し述べさせていただきたいと思っております。

特に3会場の問題でございますけれども、これまで、いろいろと精査をさせていただきました。そしてIF、NF、皆さま方からアドバイスも頂戴いたしました。その結果、まず水泳、アクアでございますけれども、これは当初2万席が必要と伺っておりましたけれども、1万5000席でよいとの、そのようなお答えをいただき、また建設を途中、大会後変えるという減築、建築の築を減らす、減築につきましてはこれは行わないという方法で、こちらのほうは、コストにしますと683億円かかるというものが、513億円という、170億円の減少ということになりますが、こちらの方法でアクアを現会場で、予定されている会場で行ってきたいということがまず第1点。

それから2点目の海の森でございますけれども、先ほどコーチ委員長とも、コーチ委員長はご承知のようにボートの選手でいらっしゃるしまして、一番よくご存じでございます。そしてこれにつきましては、今回、宮城の長沼のボート場、これは即使えるところでございますけれども、こちらをぜひ事前キャンプの場として活用することを、セキユアすると

いうことをおっしゃっていただいております。長沼につきましては大変知事が積極的で、そしてまた取り組んでこられ、さらには復興五輪という一番初めのキーワードを、これを実現するには良い会場であると、このように考えたわけでございますけれども、さまざまな費用の面、そしてまたロケーションの面、さまざまのことを考えますと、この海の森の予定地をもって、そして進めていくという、この案を東京都はとりたいと思っております。

ただし、これにつきましては、このあとの運営も考えますと毎年かなりのコストもかかるわけございまして、これについて、この競技連盟、競技協会の皆さま方がどれぐらいコミットしてくださるのかということも私はぜひ確認もさせていただきたいと思っております。

それから3番目のアリーナでございますけれども、有明アリーナ、現時点で404億円ということであっておりますが、一方でアジェンダ2020にありますように既存の会場、これは、私どもは横浜アリーナはどうかということで何度もテクニカル・ワーキング・グループの皆さま方も現地を訪れていただきました。今、ご覧いただいているのはこのバレーボールの会場をどこにすべきかということで、いろんな世論調査が行われておりますのも、横浜アリーナが7割を超えているという、こういった数字でございます。これについてテクニカルな面でワーカブルというお話もいただいております。

そしていくつか確認しなければならないこともございますので、このアリーナの問題、有明アリーナと横浜アリーナに関しましては、あとしばらくお時間を頂戴をし、といいましても、おっしゃるような時間は迫っているわけございまして、クリスマスまでには最終の結論を出したい、その間の猶予をいただけないかということをお先ほどIOCのコーツ東京大会の委員長のほうにお話をしたところでございます。

以上3つの会場の考え方につきまして東京都としての現時点での考えを申し述べさせていただきました。そしてまた2020年の東京大会をオールジャパンで行って、そしてまたアジェンダ2020を具現化する最初の大会となりますので、その責任をしっかりと痛感しながら前へ進めていきたいと思っております。今、ご覧いただいているのはこの四者協議に当たりまして、私どもが考えたものをまとめ、またIOC、それぞれの項目です、ラグビーなどもまとめさせていただきました。

もう1つ最後に図がございまして、これによって圧縮幅をご確認いただければと、このように思います。以上お時間を頂戴いたしました東京都の考え方、そしてまた東京都がこれまでの結論として出したものをご説明させていただきました。どうぞよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございました。

**コーツ委員長：**知事ありがとうございます。また、水泳会場、そして節約に関して認めてくださって、ありがとうございます。また、海の森も認めてくださってありがとうございます。また、ボート選手として私は約束します。長沼は事前キャンプとして各国のチームが来た際に、トレーニングに使わせていただくことを確約いたします。それは県にとって

も良い解決案だと考えるところであります。有明か横浜かということに関しては少し議論をここですべきだと考えております。知事が、確約してくださったこと。感謝するところであります。つまり、更なる時間をかけて2つの会場に関する最終結論、クリスマスまでには出してくださるということ。それを今日この場で約束して下さってありがとうございます。ただ、せっかく集まっているんですから、この場を利用いたしまして東京2020の組織委員会からも運営経費に関して、まだ横浜の件でまだ、つめていない部分について指摘してもらいたいと思いますし、また、竹田会長、私の同僚から、レガシーに関する竹田さんが思っている有明のレガシーに対する思いなども発言していただきたいと思います。それでは武藤総長まず、有明か横浜かということについてコメントをお願いいたします。

**武藤事務総長：** コーツ委員長、ありがとうございます。今、小池知事からお話がされたように、この有明アリーナ、横浜アリーナについても一定の進展があったということは大変喜ばしく思います。で、その上でコーツ委員長から、横浜アリーナについてどういう問題点を組織委員会として考えているのかというようなこと、お話がありましたので、これは組織委員会がというよりも、関係者が持つておる横浜アリーナについての課題といえますか、これを整理して申し上げたいと思います。

有明アリーナ自体は大変立派な施設であります。これはオリンピックのゲームをするにふさわしい施設なんですけれども、周辺の問題が多いというのが、IOCのテクニカルチームや、OBSがいろいろご覧になっていただいたときの判断だというふうに聞いております。

**森会長：** 今、横浜の話してるんでしょ。

**武藤事務総長：** はい。

**森会長：** 横浜の話。

**武藤事務総長：** 横浜アリーナの話。

**森会長：** 今、有明って（※判別できず）。

**武藤事務総長：** 失礼しました。横浜アリーナの話でございます。この点は警備の問題でありますとか、それから輸送。あそこはなかなか道路事情が非常に複雑でありますので、道路規制が非常に難しくなるとか、観客の動線が非常に厳しいものになるといったような課題があるというふうに聞いております。横浜市のサポートも、現時点では取れていないということでございます。そういう不確定性があるということでもありますので、なかなか有

明と比較するだけの条件が横浜アリーナには整っていないのではないかとということが課題であるのかと思います。

一方、有明アリーナでございますけれども、これは、各競技団体は、利用する立場ばかりでなくて、後利用についても参画していくというようなことを、意向を表明され、これは知事のもとにもそういうお話がいつているというふうに伺っております。各種国内スポーツ競技のためのレガシーになるような、そういう努力を競技団体自らが行うということをおっしゃられるようでもあります。

コストカットについては、これは都の大変な見直し努力によってかなり削減されました。さらに削減する余地が、例えば民間活力の活用といったような形であるのではないかとこのように考えています。スポーツ人口は、これからおそらく増加する可能性が高い。スポーツ団体はもちろんのことですね、このスポーツ人口が増加していくという観点からもレガシーを残していく必要があるのではないかとこのように思います。

今回、横浜アリーナ、有明アリーナの比較を行いながら、どのような選択肢を選択するのかということについては、これは私どもとしては早いほうがいいのではないかとこのように思います。といいますのは、NF、IF、スポーツ関係者は早く結論を出すことを希望しております。知事から今回がラストチャンスの見直しなんだというようなお話も、前から伺っておりますので、2カ月かけて検討した成果を今日、ご判断いただいたらどうかというふうに考えます。

で、この問題の1つに、この12月にも有明アリーナは準備工事に着工するというふうに伺っておりますが、クリスマスまでということでもありますので、その点は無理はないのかと思いますけれども、私の申し上げたいことは早く決めないと間に合わなくなってしまう恐れもあるということでもあります。取りあえず私のほうからは以上でございます。

**森会長：**ちょっと私からいいでしょうか。関連をして。ミスターコート。小池さんね、今日の時点でこの有明と横浜が結論出せないってことですよね。そういうことでしょうか。今の時点で出せない。で、もう少し研究するのか調査するのか、クリスマスまで待ってください、そういうご意向ですから、コートさんもそれでいいし、我々もそれに従いますよ。クリスマスまでにまずは何をやりになるんですか。

**小池知事：**先ほど、武藤事務総長がおっしゃいました、いろんな動線の話などもございました。今回、テクニカルグループの方々にも見ていただいたところでもございまして、ご覧になった方々によって感想は違うようでもございますが、そこをもう少し精査をするということでもございます。

そしてまた一方でですね、有明アリーナについてもいろいろと競技団体の方々からの、コミットするというお話、いただいております。そして、はっきり申し上げて、今のところの404億円っていうのは、ほかの類いの会場から見ましてもずいぶん高いんですね。そ

ういったこともむしろ今度は建築の観点から見直すということで、ちょうどそれはクリスマスごろ、つまりあと 1 カ月弱です。ね答えは出せるのではないか、そういう算段であります。

**森会長**：私は、大事なことは東京都がやるオリンピックですね。それをよその県に、よその市にやってくださいってお願いをする。これ、私もやったんですよ、実は、いくつもね。やりました。ですから、それを横浜にするっていうことは、横浜が合意をしてるんですか。それが一番大事なんじゃないでしょうか。ついでに言えば、僕の知りうる情報では、横浜のほうが迷惑をしていると聞いてます。それはなぜかっていうと、野球の追加種目がありました。これはこれからローザンヌで正式に決定をしていただきますが、内々に横浜でこの大会をやるということは、いろんな事情を勘案をいたしまして、一応内定をいたしております。あとは IOC で決めていただくだけですけども。これでもう、横浜市は手いっぱいなんですね。

ですから、私は横浜が急にバレーボールやってくださいっていうんで、おそらく林市長はじめ皆さんは、え？っていうお気持ちなんじゃないかなというふうに私は見てるんですよ。一番先に、やっぱりそこと合意を得ることが大事なんだろうというふうに思いますよ。コートさんの配慮で、事前キャンプに長沼がなったことはとても良かったと思いますが、僕らも 2 年かけて長沼も何回も調査してきました。お金のことも何もかも、みんなやってきたんです。理由は言いません、いろいろとありましたから。しかし、結果として長沼に僕らは結論を出さなかった。

で、諦めていた知事が、小池さんがおっしゃったのか、上山さんがおっしゃったのかは知りませんが、知事が慌てて私にも電話かかってきましたよ。やっていいんですか、私たちが、というような話でしたよ。同じようなことが埼玉の知事からもあって、我々は十分に埼玉に 3 つの会場を、競技をいただいているんでこれで十分だと思っていたのに、これをやれっていうんですか、っていうんで、実は自分はやりたくないんだと。しかし、何か知事が断ったって言われた情報が流れたんで、ボート協会の関係者からえらく叱られたと。だから、どうせ駄目なことは分かってます。なぜか。あの湖は、彩湖は国交省のものであって、だいたい梅雨時に、一番大事なときに水のある程度ためておかなきゃならん。そういう非常時のものだから、そういうふうに使えないことは分かりきってることだから、私はお断りをします。そう言っておりましたが、これも知事さんはびっくりしてた。

今度の神奈川のやつも横浜も、やっぱり降って湧いたように急にそういうふうにしてこられる。僕らもいろいろあっちやこっちや、お願いしましたよ。しかし、それなりに理由がきちんとあって、お願いをして、合意を得て、アスリートの皆さん、NF の皆さん、IF の皆さん、それから関係の地域、皆さんと合意を、みんな取り付けてから IOC に相談に行ったということをやってきましたんでね、クリスマスに延ばして、まず横浜市のご了解をきちんと取って、そして横浜市だけでなく、横浜の関連のですね方々が喜んでそれを迎

えてくださるというような、その体制までがあと 1 カ月ほどでなるのでしょうか。とれませんか。

**小池知事**：ありがとうございます。先ほど、埼玉の例は、こちらは彩湖の件については位置付けはよく分かっておりましたので、知事からのご要請ということには受け止めさせていただいたという立場でございます。

横浜について申し上げますと、この横浜アリーナの可能性について、客観的に調査をし、そしてこの可能性について非常に大であるということでもございました。また、横浜市の方にも賛同させていただいたところで、お決めいただいたらぜひやりたいというような言葉をいただいております。ただ、いろいろと立場がございますというお話もございまして、そういったことから、これからクリスマスまでに横浜の方々に問い掛けをしていくということをしていきたいと思っております。

**森会長**：くどいようですが、横浜はオッケーをしてくれると、受け入れてくれるというふうに知事は判断しておられるということですね。

**小池知事**：そのことを期待いたしております。

**コーツ委員長**：カズさん、そして武藤さん。

**竹田会長**：はい。ありがとうございます。日本オリンピック委員会会長として、スポーツ界を代表して意見を述べさせていただきたいと思っております。これまで、組織委員会はオリンピックアジェンダ 2020 にのっとって、そしてコスト削減に努めてきました。

その結果、ユース・アリーナ A、これはバドミントンですが、武蔵野の調布のアリーナに移りました。それからユース・アリーナ B、これはバスケット会場、埼玉に移りました。

で、体操の会場も仮設ということになりまして、唯一、この有明のアリーナが 2020 東京オリンピック大会の室内の競技場のレガシーとして残せるという可能性が非常に、我々としては期待をしているとこなんですが、やはり東京オリンピックの 2020 年で、このアリーナ、有明アリーナが、なんとかレガシーとして残し、夏のスポーツだけでなく、冬のスポーツ、アイスホッケーであるとか、フィギュアスケートであるとか、そういった冬のスケートもここでできるような、冬の大会もできるような、そういったものが、この東京の中に 1 つあることは、非常に日本のスポーツ界にとって大事なことであり、なんとかこれを認めていただければ、大変、スポーツ界はありがたいというふうに思っております。

これは、招致段階におきまして、スケート連盟、あるいはスキー連盟から、東京に 1 つ、冬の競技場を残してもらいたいということ、我々よく聞き、そして、そのための努力を

したいということによってまいりましたので、こういったことの約束にもですね、きちっと応えていければ、この大会は多くの方に喜んでいただけるんじゃないかというふうに思っておりますので、述べさせていただきます。ありがとうございます。

**コート委員長**：武藤総長、その後私のほうからまとめます。

**武藤事務総長**：横浜アリーナの周辺環境のさまざまな問題については、かなり問題が多いということは共有されているというふうに理解しております。そこでクリストフさんにはちょっとお尋ねしたいんですけども、これらの問題を解決するために、いろいろな現地における調査および交渉事が必要だというふうに聞いておりますけれども、それにはどのぐらいの時間がかかると。これ、IOCのテクニカルチームがそういうことをやっていたことになるわけですけども、どのぐらいの時間がかかるというふうに考えたらよろしいのでしょうか。

**デュビエグゼクティブディレクター**：武藤総長、私のほうから意見を申し上げる機会をありがとうございます。小池知事グラフィケーションとまとめ、ありがとうございます。非常に参考になりました。

横浜を検討する際に、都市環境にある会場ということを考えなくてはなりません。オリンピックの場におきましては会場の周辺に全ての機能をやることも考えなくてはなりません。だから全ての機能を会場内にとどめることはできないんです。

横浜を考えますと3つあります。外側にどれぐらいのスペースが必要であるか。評価によりますと、上山さん、それからテクニカルチームがやった評価によりますと、スペース、空き地というのが特定されております。こういう空き地があると、スペースがあるということが分かっております。それと同じことが動線とそれから輸送に関していえます。横浜では、普通の場合にはプランはあるのは分かっています。

しかしながら大会ということになりますと複雑になります。それは警備という観点も入ってきます。人の流れということを考えなければなりません。ですからこれから数週間でやらなければならない、例えばクリスマスのデッドラインを満たすということであるならば、次のことをやらなければなりません。まずは運営計画が必要です。詳細運営計画です。こういった要素を全部盛り込んだかたちで会場がどんなふうに機能するかということを確かめなければなりません。オリンピックという環境下で、でこれは本当に大事なことであります。

そして合意を取り付けなければなりません。民間、それから公的なオーナー、横浜市とおっしゃりましたけど、民間の地主という方がいらっしゃるわけです。そういう人たちからも合意を取り付けなければなりません。もし、横浜でやるということが決まったならば全てのアグリーメントは整っていなければなりません。

で、その後になってハードルがでてきて、結局は会場を使えないなんていうことがないようにしなければなりません。そこで理解されていなければならないのは我々がこれから数週間でしなければならない作業というのは、これは立候補ファイルの時をお願いしているような種類の作業であります。2024年の立候補都市というのは土地の使い方、会場の周辺の土地をどうに使うかということをやいなさいということを行っているんです。

武藤さんにどれくらい時間がかかるのかというふうに聞かれましたので、大変な作業になるということを申し上げたいと思います。全員がなければなりません。それから一生懸命に多くの方が努力をしなければなりません。クリスマスのデッドラインに間に合うためには。これは非常に野心のレベルの高い目標だと思います。でもこのデッドラインを自分達にそれを課すという事であるならば、腕まくりをしてそして、一生懸命とにかく最後の2ヶ月やってきたように一生懸命やるというしかないですね。

**コーチ委員長：**ということでまとめます。これから作業を進めます。有明のコストがどれだけになりうるのか作業を続けます。それから是非、民間がかかわるという事があるかどうか是非研究してください。例えば民間の資本を導入することが可能になるとか、あるいは有明の運営権を民間に売却することも収入になるわけです。そういうかたちをとっている競技場がいろいろあると聞いております。そして、それと同時に運営計画もつめていくということです。そしてそれをちゃんと有明と横浜を比較しうるようにしなければなりません。それは大変野心の高い目標になりますけれども、それをコミットでやるということであるならば、ベストを尽くしてやるということでしょう。我々もIFそれからNFとともに皆さん方をその面でご支援はするつもりではあります。手伝うつもりではありません。手伝いはします。

大事なのはやはりここで我々この四者協議の作業を続けるということだと思います。そしてこの協議のあと一応これは3回するわけですが、それでもとにかく仕事を続けるということです。横浜にするのか有明にするのか。仕事は続けるということです。

さて、皆さんがたの前で想起したいことがあります。メディアの方もいらっしゃいますので思い起こしたいと思うのですが、既にたくさんの節約ができています。4億ドル以上の節約がもう会場費だけで出来ているということを言いたいと思います。それから18億ドルその以前に節約しているということを加えて考えますと大きな進捗があったということで皆さま方の協力に心より御礼をしたいと思います。

ということでそれでは一般の予算的なお話に移行したいと思います。どなたがリードなさるんですか。武藤さんですか。

**武藤事務総長：**委員長、ありがとうございます。それでは予算について発言をさせていただきます。まず、関係する方々から過去大会の経験を踏まえまして貴重なアドバイスをいただきましたことに感謝申し上げます。年内に大会経費の全体像を組織委員会、東京都、

政府で取りまとめて公表したいと考えます。年内の取りまとめに向けて、引き続き精査を続けております。2兆円は切る見込みであります。現時点における判断であります。今後もコストカットに向けた努力を続け、いわゆるV2予算、これは来年の今頃IOCに提出することになると予定されておりますけれども、それに反映するように取りまとめていきたいと思っております。

で、予算については今、申し上げましたとおり、2兆円は切るというのは現段階の見込みであり、今後、さらに削減に向けて努力するということでもありますけれども、予算の額の議論に加えまして、予算管理のガバナンスにつきましても、その強化を進めていく必要があるというふうに思います。われわれ日本側の関係者がしっかりと連携を取ることが重要であります。

そこでまず第1に調整会議。これは6者の調整会議が今、ございますけれども、その事務局機能を強化する。第2に調達につきまして、より効率的な調達の実施に向けた取り組みを行う。第3に仮設オーバーレイの執行に当たりまして、これは各主体が執行することでもありますけれども、ばらばらにならないように横串を刺す執行体制の構築を行いたい。この3点をぜひ進めていきたいと思っております。で、その上で、このガバナンス全体の透明性を高める、情報公開に努めるということがぜひ必要であるというふうに思っております。最後に皆さまのご協力に心から感謝を申し上げます。引き続き、よろしくお願いを申し上げます。

**小池知事**：さまざまな整理をしていただきまして、誠にありがとうございます。費用の負担につきましては東京都がIOCとの契約を結んでいるという関係から、非常に私どもは責任が大きいわけでございます。そういう意味でコストの削減はオールジャパンで取り組んでいただく、それはすなわち東京都の負担に直接関わってくる問題でございますので、調達の方法などについても、より研ぎ澄ませた形でお願いをしたいというふうに思っております。

私どもは3兆円ということをお知らせしております。これは予算ではなくて、終わったときにいくらかかるかという、その可能性について言及させていただいております。これまでのさまざまな大会におきましても、予算と、そして最後、締めてみたらいくらだったというのでは、かなり数字に違いがあるということでございまして、その点を私どもは考えた上での3兆というまとめとさせていただいております。

特に外にあまり現時点で出ない、もしくは出せない数字もございまして、結果としていくらだったかということは、主催自治体としても極めて重要な話であり、そういったことを念頭にしながら、いかにして効率良く縮減をしていくかということを考えて、ともに進めさせていただきたいと思っております。

**武藤事務総長**：知事、大変ありがとうございます。私どもも予算が現実の支出として、我々

の考えております 2 兆円を切る、これはすでに東京都とも国とも、十分、意見交換した上でのものがございますので、これを上限として現実の数字をこれ以下に抑えると。そのための予算の管理のガバナンスを強化して、実際がちゃんと予算の範囲内に収まるように、そういう努力をしなければならないというふうに思っております。知事のご指摘は大変重要なことでございますので、そういうつもりでやらさせていただきます。

**小池知事**：よろしくお願いいいたします。建築、施設の部分というのは、実は全体からすれば割合はむしろ少ないほうでございますが、それにおきましても例えば海の森も、最初のころと、突然 1000 億になったり、今度その半分になったりということで、かなり、そのぶれが激しいというのも経験をしてまいりました。そういう意味ではきちんと 1 つずつ精査をしていくということは極めて大切なことであり、そういったことを踏まえながらガバナンスの利いた調整会議であることを願っております。

**森会長**：知事のおっしゃるとおりです。ですが何をつくるにも、結果は都がおつくりになるんですよ。都がおつくりになるんです。我々がつくるんじゃないです、組織委員会は。案配をするだけのことです。ですから高いと思ったら削ればいいんです。もっと安くしたいと思ったら安くすればいいんです。私はこの会長になったときもそれを原則でやってきましたよ。

ですから、選挙のときにおっしゃっていた、コンパクトを広げましたねとおっしゃったけど、あれはそうしないとやれなくなりますよっていうことを申し上げたんです、この間は。ヨットにしても、理想的なんです、海でやるのは。あそこでやれば防潮堤が、2 本も必要なんです。1 本 450 億円って書いてありましたけど、そんなものを造ったら都民が承知しないだろうと私は思っているんです。大変叱られましたよ、関係者から私は。

しかし結果的には飛行機のコースがあって、空撮ができない。IOC にとって一番大事なのは空撮なんです、飛行機から撮影する。それも危なくてできないという、そういうこともあってこのヨットを動かしたわけですけど、今の海の森公園でもそうだと思いますよ。コースだけなら、これ、山本さん、90 から 100 億じゃないんですか、コースだけなら。そうでしょう。

海の森公園というのは、必ずしもヨット、あれに必要なんですか、オリンピックに。僕は初めからそれは疑問視しているんです。なくたっていいんですよ。ポートコースさえきちんとできれば。しかしあそこはもともとごみがいっぱい埋まった島で、あるいはきれいな公園にしたいというのは、前からの東京都の願いだったんだと思います。そういうものと一緒にすれば 300 億とか、400 っていう金になるのは当たり前なんであって、だから安くするっていうのは、大いに私は賛成ですよ。だからできるだけ削減をしていくことが大事だと思います。

従ってそのことも含めて、我々も気を付けてまいりますが、あたかも何か 3 兆円が

上に予想されるんだってということばかり国民の皆さんに言われると、はなはだ迷惑なんです。私どもは 2 兆よりもどうして下げるかっていうことをずっと研究してきてるんです。何かって言うと、これは話が長くなって恐縮ですが、ロンドンの場合は最終的に国が持つべきもの、セキュリティとか、エネルギーであるとか、輸送費だとか、これは結局国が持ってくれて、確か 9500 億ですか、入れてくれているんですね。それで 2 兆数千億になっているはずで、ロンドンも、ソチはもっといっています。4 兆ぐらいいっています。

だからそういうものを我々は見ながら、なぜ決められないのか、なぜ額を明確に言えないのかってよく叱られたんですが、まだその辺はこれから大臣のご協力をいただいて、国が関わるものはなんなのかっていうこと、これはよく研究しなきゃいけないことですよ、勉強も。そうなれば額がぐんとまた縮まってくるはずなので、そういうことを努めながら我々はやっていきたいと思っております。

設備を造ることについてお金はかかるんで、けしからん、けしからんっていうなら、もう安くしましょう。できるだけ安くしましょう。ただし、これからあとに立派な施設として残るってということも当然考えなきゃならない。

**小池知事**：ご指摘ありがとうございます。そしてこれまでのご努力にも本当に敬意を表したいと思います。要はコストとインベストメントがこれをきちっと、概念をしっかり捉えることが、将来に向けてのインベストメントは、これは東京都も必要だと思いますよ。むしろそれがわくわく感を呼んだり、スポーツによる健康寿命を延ばしたりというようなことがありますけれども、コストについては、もう少し東京都そのものもシビアにしないといけないと思って、今、情報公開も徹底して行わせていただいているところでございます。

むしろこの東京 2020 年大会はその意味でも非常に大きな、東京にとっても分水嶺になるろうかと思っておりますので、必要なインベストメントはしていきたいと思っております。ぜひともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

**森会長**：期待しています。

**丸川大臣**：失礼いたします。国の費用負担についてご指摘がございましたので、皆さまにぜひ認識を共有していただきたいということで、一言、触れさせていただきます。平成 23 年 12 月 13 日の閣議了解がございまして、この中では施設の新設、改善、その他の公共事業については、途中省きますけれども、その規模を通常の公共事業費の中での優先的配分により対処しうるものとし、また国庫補助負担率等の国の財政措置は通常のものとする事となっております。加えて新設する施設の将来にわたる管理、運営については地元の責任と負担を主体として行われるものとする事。また、大会運営費は適正な入場料の設定、放送権収入等の事業収入等により賄われるものとする事。

これ、閣議の了解でございますので、今後、国の負担ということ、これまでの前提にのっとりますと、この閣議了解を前提に議論をしなければならないということになりますので、その上でどうするかということがもしございましたら、またご相談をさせていただければと思います。

**森会長**：当然なことです。ですから国と都とわれわれ組織委員会等々の役割の分担、予算の担当の割り振り方、これをちょうど前知事がお辞めになる直前にこのことの作業を完了するようにしていたんですが、知事選挙、その後のことで今でもまだ延び延びになっているということです。やはりどういう形であれ、大事なことは大事に守らなければなりません、その話し合いの作業をやっぱり再開しなければいけないというふうに思います。ぜひ、それについてもご協力をいただきたい。

**小池知事**：いいですか。今、極めて、国内の分担の話になっておりますけれども、平成23年は確か民主党政権時代であったかと思えます。閣議決定というのは何政権であれ、それは有効な部分もございますけれども、あらためてその役割について、森会長はじめ、やはりどうあるべきかっていうのは、今、IOCの皆さんの前で繰り広げるあれではないかもしれませんけれども、これはしっかりと役割を明確にする必要があると思えます。よろしくお願いします。

**丸川大臣**：閣議了解はあらためて別のことを同じ内容で閣議了解しないと上書きができませんので、もし必要とあれば議論をして、閣議で了解できるものを作った上であらためて閣議了解を重ねるということになろうかと思えます。

**コーツ委員長**：ちょっと関心をもって今の議論を拝聴しておりました。予算は何か、そしてコストは何か、という議論に関してです。そちら側のエコノミストの皆さまは、加えましてもう一つの要素があるということ認識しなくてはなりません。つまり、土地を海の森のように活性化する際におきまして、新しい会場を新しい場所に置くときは、付加価値が生まれるという要素も織り込まなくてはなりません。オリンピックを開催する、あるいはある場所に会場を設けることによって生み出される付加価値は、やはりコストの相殺効果があるわけです。その価値ある付加価値、つまり選手村の周辺の付加価値が高くなるということ、海の森の活性化によりまして、付加価値が出る、それを念頭に入れなくてはなりません。IOCに関して、IOCの立場ですけれども、テーブルのこちら側で全般的な合意があると思えます。その予算の2兆円という上限ですけれども、それも高いと思っております。まだそこから節約ができる余地がたくさん残っております。それは早く決定を下すこと、早く入札手続きを始めて早く契約を結ぶこと、それを先送りしてしまうと結局資材費などの高騰がインパクトを及ぼしてくるわけです。その上限は極めて高いと、それ

よりもずっと低くあるべきだと考えております。さらにIOCとして主張したいのは、予算を出すときに、アジェンダ2020をフォローするという、それは皆さまよくご承知だと思います。まず運営予算をIOCに提出してもらうということ、会場予算を必要である新設会場のコスト、そしてそのほかの経費、こちらを誰が負担するのかということにもかかわってくるということでもあります。また、運営予算の中に、IOCが拠出する額も認識しなくてはなりません。15億ドルをリオでは拠出しました。今回はもう少しそれに上乗せされると予想しております。それを運営予算で反映させるということになります。また、国内スポンサーがあります。極めて順調にスポンサーが獲得できております。8%ですか。入場券収入のそれだけの収入があるわけです。ですから、運営予算になったならば、損益分岐点かその近くに行くはず。そして会場予算についてですけれども、新しい会場を建設するところでは、その会場は50年は生き残るということ、東京都民が恩恵にあやかるといふこと、国立競技場が50年使われたのと同じようにです。そのことも念頭に入れなくてはならないということです。また、この機会をとらえてさらに申し上げたい。国民・都民の皆様には是非理解していただきたいのは運営コストにはオリンピックとパラリンピックの両方含まれるという事実であります。両方分けるということ、運営組織ではなく、私の期待としては、パラリンピックが加わるということのコストは、5億から7億5千万とかそのくらいだと思います。IOCと入場券収益がパラリンピックのその費用を出すということです。ですから、その足りない部分に関して都民の方に負担していただくということになるのかということです。とにかくもう、近々バージョン1に関しては提出していただかなくてはならないとご認識ください。先送りに今までもされてきました。知事がもう自らに期限を課されてクリスマスまでに決断を下すというふうに自らを律してらっしゃるので、我々としては今言ったことを反映した予算を近々提出していただきたいと思っております。予算が出る、そして向こう四年間でいろいろとやりとりがあってそこから変更するでしょう。でもとにかくバージョン1は可及的速やかに提出していただかなくてはなりません。2兆円、200億ドル、が上限というのは高すぎると思います。それよりもずっと下でいけると思っています。はい武藤さん、もう財務のエキスパートですから最終発言を武藤総長どうぞ。

**武藤事務総長：** すいません、ありがとうございます。コーツ委員長から大変重要なお指摘がありました。1つは2兆円もまだ巨額すぎるということでもあります。私どもも2兆円が現在、適切な数字であるというふうにはまったく思っておりません。繰り返しになって恐縮ですが、これを元にさらにIOCとよく相談しながら、これを削減していくという努力をしたいと思います。で、バージョン1予算は組織委員会の予算であり、ご承知のとおりIOCから拠出金をいただき、ほとんど残りは全て民間資金、すなわちスポンサーシップ、チケットの販売収入等々でございます。幸いなことに民間収入の額は順調に確保できるというふうに思っておりますので、組織委員会については民間、全て民間収入を元に収支相

償うような予算として、V1 予算を早急に出す予定でございます。

大変遅れていて申し訳ございません。これは今年の秋ごろ出す予定でしたが、ご承知の事情で遅れておりますが、先ほどのクリスマスまでというお話がありましたので、もうちょっとお時間をいただかなければなりませんけれども、できるだけ早く V1 予算を IOC に提出させていただきます。その際にはオリンピック・パラリンピックの予算の区分等についても十分に説明できるようにしていきますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

**コート委員長：**マスコミの皆様に対するメッセージです。大会の運営費、そして会場費が 2 兆円というわけではない。それよりはるかに低い額になるということです。IOC はそれをはっきりとさせたい。特にこれから 2024 年の開催都市が来年決定されるときに国際メディア、そして世論もこれの数字をかなり注目しているわけです。IOC に対して不公平にならないように、この分野で決して誤解の無いようにはっきりとさせたいと思います。皆さんもそれに関しては了解されていると思いますけれども、改めて確認させていただきました。いいミーティングでしたね。知事、まとめされますか。

**小池知事：**いえ、まとめではありません。でも、付け加えたいことがあります。今日はレガシーの話も少し出ましたけれども、やはり会場のレガシーとそれからアスリートによるレガシーというのも非常に大きいと思います。そういった観点から今、経費の削減に努めてはおりますけれども、むしろ削減した分はアスリートの皆さんの強化に充てていくぐらいの気持ちで、例えば 57 億円返金していただいたお金も、まだ決めておりませんけれども、レガシー財団という形で、ぜひアスリートの方々の強化を努めたいと、強化にそれを活かしていきたいと、このように思っております。ですから施設のみならず、アスリート個人のレガシーづくりということにも東京都はぜひ、ご支援させていただきたいと思っております。

それからもう 1 つ、やはり復興という大きなテーマがございますので、福島の話、今日の長沼の話もそうでございますけれども、バッハ会長もこの復興ということについて、天皇陛下、そしてまた安倍総理のほうにもこの復興についてありがたくも触れていただいております。ぜひ被災地を励ます、そしてまた元気になりつつある被災地が世界へその元気を発信するというチャンスぜひとも頂戴できればと思っておりますので、この 2 つをぜひ、付け加えさせていただければと思っております。ありがとうございました。

**コート委員長：**その 2 点付け加えてくださってありがとうございます。竹田会長は特に最初の点、すごくハッピーなんじゃないですか？日本選手団の強化に費やすということで私は豪州選手団の団長という立場からしてはあんまりハッピーではないんですけれども、これはやはり大会の成功にとって、また日本国民の皆さまにとってはむしろ注目するのはコ

ストとか観光客が何人来たかではなくて、やはり母国チームのメダル獲得数、成功率だと思えます。それは皆の知るところです。福島における復興に関してですけれども、IOCは本当にこれに関しては力を入れているところでありまして、テストイベントを、しかもポピュラーな競技の事前大会を福島でやりたいと思っています。適切な会場を指定していただければ、我々はIFと取り計らって手配したいと思えます。もう野球とソフトボールに関してはIFとも話し合いを進めております。おそらく、被災地の皆さまにとっても勇気づけになると思えますけれども、竹田会長、知事にありがたいと言うこと以外に何か言うことはありますか？

**竹田会長**：大変ありがたいお話をいただきまして、心から感謝をしたいと思えます。やはり日本選手団の活躍は東京オリンピックの成功には必要不可欠だと思っておりますし、非常に重要なことであります。そういったアスリートのことも考えていただいている知事に本当にありがたく感謝したいと思えますし、そのために我々もきちんと成績を上げて、応えていきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

**コーツ委員長**：改めてすべての参加者に感謝したいと思えます。先ほども申し上げました通り、まだ我々の作業が終わったわけではありません。加えて、マスコミの皆さま、報道陣の皆さま、ご出席くださってありがとうございますし、東京大会の成功にここまで関心を寄せてくださっていること心より感謝します。IOCも心より感謝いたします。それでは本時点でこの会議を終了いたします。また近々お会いできますように。

以上

※ 出席者の発言を録音データからおこしたもの（IOC側の出席者については、通訳が日本語に訳したもの）であり、必ずしも全ての発言を正確に再現したものではありません。